

1 学校運営の目標・方針

教育目標 自ら学ぶ生徒 ころ豊かな生徒 たくましく生きる生徒の育成
 ～互いに学び合い、磨き合い、支え合い、生徒の将来の夢につながる教育の創造～
 経営 ○小規模校の強みを最大限生かした学校づくり
 の ○「本気」になることで、力を伸ばす。そして次につながる喜びを得る。
 基本 ○夢ある教育 ころ豊かな人づくりの推進

2 本年度の重点目標

○一人一人の生徒を大切に学習指導の実践(基礎基本、思考力・判断力・表現力、授業改善等)
 ○心豊かな生徒の育成(生命の尊重、心の通うあいさつ、道徳教育・人権教育の充実等)
 ○生徒・保護者・地域から信頼される安心感のある学校づくり(生徒指導の充実、教育環境の整備、地域との協働等)
 ○特色ある教育活動の充実(体験活動・小規模の特性を生かした縦割り班活動・キャリア教育の充実)

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・生徒が理解しやすいアンケートに改善していることはよいことである。
 ・学校評価のためだけでなく、アンケートを生徒理解に役立てて日常の観察や個別支援につなげるようにすること。
 ・アンケートだけでは把握できない生徒の実態があることを理解し、きめ細かな指導と支援体制を確立する必要がある。
 ・学校は、アンケート結果を真摯に受け止め各分野での改善を行い、その結果等の情報発信を進めること。

5 総合的な学校関係者評価

・教師と生徒の関係が良好であると感ずる。しかし著しい社会変化に対応しながら学校教育を充実させるには大きなエネルギーがいる。そのためにまず教職員が健康を維持し、活力ある学校づくりに取り組むことを期待する。
 ・対話的な学びの場面やICT活用の授業づくりが課題であり、生徒の資質能力を育成するために学校全体で教育課程と指導方法を改善する必要がある。また家庭・地域と連携した教育を推進する必要がある。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	開かれた学校(地域への情報発信) 学校は、学校行事や生徒の様子を積極的に情報発信している。	A	生徒・保護者の95%以上が高評価を与えているのは、学校便りや学級便りに加え、スマートフォンやPCで確認できる学校連絡アプリの定着が考えられる。
	開かれた学校(家庭地域との協働) 学校は、生徒が安心して過ごすために、家庭・地域と協力している。	B	様々な方法や機会を通して、生徒の様子だけでなく、学校教育目標等について情報発信し、保護者・地域の教育力を導入し安心・安全で協働的な学校運営を推進する必要がある。
	生徒指導(いじめ防止・好ましい人間関係) 学校は、いじめのない安心して過ごす学校づくりに取り組んでいる。	B	生徒の1/12人、保護者の1/9人が不安を感じていることを真摯に受け止め、いじめに対する毅然とした態度と、深い生徒理解に基づく生徒指導を教職員全体で全うする責務がある。
	生徒指導(内面理解・発達支持的指導) 学校は、一人一人の思いや悩みを聞く環境づくりをしている。	A	1割の生徒が相談しにくいと回答。生徒がためらわず相談できるには、生徒・保護者と積極的にコミュニケーションを図り、安心と信頼が育む温かな人間関係を構築する必要がある。
	生徒指導(◎重点目標:心通う挨拶) 学校は、気持ちのよい挨拶が飛び交う学校づくりに取り組んでいる。	A	重点目標の1つ「自主的に心通うあいさつができる生徒の育成」の関連質問である。生徒が学校・家庭・地域で心通うあいさつを行い、多様な人々と共に成長することを期待する。
	進路指導(◎重点目標:キャリア教育) 学校は、進路や目標について相談しやすい環境づくりをしている。	A	3年生の約8割、その保護者の約7割がAと回答。その要因の1つとして、生徒・家庭とのきめ細やかなコミュニケーションの積み重ねが進路指導に対する信頼を高めていると推測する。
	危機管理(学校警備防災マニュアル・連携体制) 学校は、災害等の危険時に生徒が的確に行動する指導をしている。	A	保護者の評価がやや低い。本校の危機管理マニュアルや訓練内容を伝える必要がある。地域の災害特性を共通理解し、迅速な対応ができる協力関係を築く必要がある。
	部活動(自発的な活動の活性化) 部活動(社会体育等を含む)は、やりがいを感じ取り組んでいる。	B	一部活動や活動時間の短縮の中で、生徒が充実する指導方法の工夫が必要である。教員の1/5人がCと回答していることから、部活指導について協議・改善する必要がある。
教育課程	施設設備(安全管理体制の整備) 学校の施設や道具は、安心して利用できる。	A	日頃の教職員の確実な管理と生徒の丁寧な清掃活動により、安心・安全な学びの環境が維持されている。今後も小さな異常等を放置せず生徒の安全を最優先にした施設管理を行う。
	学習習慣・基礎基本(指導と評価の一体化) 授業は分かりやすく、学習習慣や知識の定着につながっている。	B	生徒・保護者の1/10人以上が授業が分かりにくいと回答。この結果から、各自の理解度に応じた「指導の個別化」と学ぶ意欲を高める授業改善が必要である。
	主体的・対話的な深い学び(◎重点目標:授業改善等) 授業の流れが分かりやすく、話し合いで自分の考えを深めている。	B	教員の1/5人がCと回答している状況を反省し、学習指導要領が示す資質能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を再確認し、授業改善に具体的に取り組む必要がある。
	道徳教育(◎重点目標:心豊かな生徒) 道徳授業に積極的に取り組み、自他を大切に人間関係を意識している。	B	生徒の9割が道徳の授業に積極的に取り組み、級友とのよりよい人間関係をつくらうとしている。研修等を積み重ね、授業を要にして学校全体の道徳教育の充実を図る必要がある。
	人権教育(◎重点目標:心豊かな生徒) 先生は、生徒一人一人の考えや個性を大切にしている。	A	ほぼ全員の生徒がA・B評価であるが、2%が「まったくあてはまらない」と回答している事実を軽視せず、違いを認め合い、自他の人権を大切に学校づくりに尽力しなければならない。
	特別活動(◎重点目標:小規模校の特性) 行事は、学級や縦割り班で仲間と協力し、積極的に活動している。	A	重点目標「小規模校の特性を生かした縦割り班活動の充実」との関連質問。特活の目標(個性の伸長、よりよい人間関係等)の実現に向け、今後も縦割り班活動の工夫が必要である。
	総合的な学習(◎重点目標:体験学習の充実) ヒマワリ栽培やボランティアは、自ら考え活動できるよい機会である。	A	体験だけで終わるのではなく、体験で見つけた疑問・課題を探究する学びが重要である。南光地域ならではのよきや課題を考え、地域と連携した授業展開を考えていく必要がある。
	連携教育(小中9年間の成長を支える教育) 保小・地域と取組む授業や交流は、自分の成長に役立っている。	B	小中連携の充実に加え保育園との交流を開始した。また福祉施設との交流もコロナ後初めて再開した。今後も地域とのつながりの中で、生徒の成長を支える体制づくりが必要である。
課題教育	GIGA(情報活用能力・モラルの育成) ICT活用の授業は分かりやすく、モラルを守り積極的に活用したい。	B	教師の1/3人がC・Dと回答していることを真摯に受け止めなければならない。ICT活用が得意な教師もいればそうでない教師もいるが、ICT活用は全ての生徒にとって必要な時代である。
	防災教育(防災意識・指導力の向上) 避難訓練や防災学習は、いざというときの災害時に役立つと思う。	A	阪神淡路大震災～能登半島地震に至る、いつどこで発生するか分からない自然災害に対応するために、緊張感をもち実際に役立つマニュアル作成や防災教育に取り組む必要がある。
	特別支援教育(一人一人を大切に教育) 授業はすべての生徒にとって分かりやすく、喜びや充実を感じる。	B	全体的に評価が低い。特に教師の3人がC評価であることを全職員で共有し、すべての生徒が充実し主体的に学ぶ意欲が高まる、ユニバーサルな授業づくりを実現する責務がある。
	健康教育(◎重点目標:自他の生命尊重) 先生は、生徒の命と健康を最優先にして接している。	A	気候変動による気温上昇と熱中症、コロナウイルス感染拡大以降、子どもたちの命と健康を守る学校教育の重要性が増している。今後も学校安全管理の徹底を継続する必要がある。

6 学校自己評価結果に対する学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
生徒が高い評価をしていることは良い。保護者向けの動画を配信する等、今後もICTを積極的に活用した情報発信を期待する。
生徒と教職員の良好な関係が築かれていると感じる。過度な負担がかからないように工夫して、学校・保護者・地域の協働的な活動を確保するべきである。
いじめは学期毎のアンケートだけでは把握できない。学校は日常のアンテナを高くし、保護者と連携して問題が深刻化しない体制をつくるのが大切である。
教師だけでなく身近な誰かに相談する大切さを伝える必要がある。SCやSSWの配置時間を増やす等、生徒が相談しやすい環境づくりを求める。
以前は部活動等の形式的な挨拶をしている様子が散見されたが、現在は学校内外に関係なく、気持ちよく挨拶や会釈をする生徒が多い。
多様な進路を具体的に知るために、卒業生による進路先紹介等は有効である。また進学後の変化に適應できるように様々な経験をするのが大切である。
自然災害は地域の地形・災害特性等について生徒が学ぶ必要がある。学校・家庭・地域の三者で想定される危機について話し合う必要である。
生徒数が大きく減少する中で、さらに部活動運営が難しくなってくるだろう。生徒の意志を尊重して、やりがいを感じる工夫した部活動を期待する。
生徒の清掃活動や花壇の花々によって美しい環境づくりが行われている。梅雨期の結露による転倒の防止等、年間を通した施設の安全管理を期待する。
学びを支えるのは意欲である。学習に困り感を持つ生徒たちが意欲的に参加できる、きめ細かな学習指導を学校全体で推進する必要がある。
一斉型の授業から脱却し対話を重視したペアや班での学習への転換を求める。少人数の利点と課題を明らかにし授業改善を進める必要がある。
道徳的価値に関する授業は難しいだろうが、すべての教員が取り組む必要がある。また家庭でも道徳的価値等を話し合えるよう保護者も研鑽が必要である。
アンケートでDを選択した生徒が気がかりである。日常的な観察や面談から本人の困り感を把握し、個別の支援をする必要がある。
体育祭では先輩を見て後輩が多くを学んでいると感じた。縦割り班活動によって協力する心が育まれ、将来の人間関係形成力の育成につながっている。
生徒・教職員共に一生懸命に取り組んでいる。ヒマワリ栽培を中心とした本校の体験学習は、大人になってからもよく話に出る意義ある取り組みである。
発達段階が異なる保育園と小学高学年で、どのような視点で接することが大切かを学ぶよい機会である。今後は同世代とのつながりを重要視するべきではないか。
積極的なICT活用は重要だが、PCの専門家でない教員が疲弊しないよう、時間を有効に活用し学習に取り入れて行く必要がある。
マニュアルよりも家庭・地域と連携した実践が重要である。将来起こるであろう自然災害に備え、地域と共に生徒の防災意識を向上させる指導が必要がある。
アンケートでDを選択した生徒がいる。全体と個別の支援を行う難しさがあるが、特別な支援が必要な生徒は増加傾向であり、その対応は不可欠である。
健康等に加え性教育の重要性を感じる。コロナ禍の教訓を生かし、生命尊重と日常的に生徒自身が健康セルフチェックを行う指導を期待する。